

開催報告

4th ICTG の報告

日本大学 山中 光一

令和3年5月24日(月)～27日(木)の日程で第4回交通地盤工学に関する国際会議(4th International Conference on Transportation Geotechnics)が開催された。当初の予定では、2020年8月30日～9月2日の日程で、アメリカ・イリノイ州シカゴで開催される予定であったが、新型コロナウイルスの影響により Virtual にて開催された。この国際会議は、ISSMGE-TC202(以前のTC-3)の下、2008年に第1回(英国で開催)が開催され、2012年には日本(札幌)、2016年のポルトガルに引き続き今回で4回目の開催となる。ICTGでは、道路、鉄道、空港、港湾等の交通インフラに関わる設計、施工、維持管理を主体とした16のテーマが設定されており、そのうちの一つに「ジオシンセティックスの利用」が挙げられている。第4回ICTGでは、約260件の投稿があり、ジオシンセティックスに関する内容の投稿論文は22件(日本からの投稿は2件)であった。他のテーマと比較してもジオシンセティックスに関する内容は、投稿数が多いテーマであった。投稿された論文は、ジオグリッドを用いた路盤やバラストの支持力特性や解析に関する論文が多く見られた。続いてジオテキスタイルやメンブレン、EPS等を用いた論文が投稿されており、セッションでは活発な議論がされていた。

会議は、5/24にWorkshopやshort courseが開催され、5/25より一般論文の発表が行われた。5/24には、「Geosynthetics In Transportation Geotechnics」のタイトルでジオシンセティックスに関するshort courseが開催された。short courseでは、Jorge G. Zornberg教授、Erol Tutumluer教授、Jie Han教授からジオシンセティックスを利用した舗装、鉄道、空港に関する設計手法やメカニズムなどの講演が行われた。また、5/25以降の一般セッションの合間には、Keynote LectureとSpecial Lectureが開催され、ジオシンセティックスに関する内容としてChungsik Yoo IGS会長とJorge G. Zornberg教授より、以下のタイトルで講演が実施された。

- Keynote Lecture (Chungsik Yoo IGS 会長)

Geosynthetic Solutions for Sustainable Transportation Infrastructure Development – Fundamentals and Global Challenge

- Special Keynote Lecture (Jorge G. Zornberg 教授)

Properties Governing the Design of Geosynthetic-stabilized Roadway Bases

本会議を通して、海外ではジオシンセティックスの交通インフラ分野への利用や研究が積極的に行われている印象を改めて受けた。日本の交通インフラの分野は、他国と比べても引けを取っていないが、今後の持続可能な交通インフラ構築のためにもジオシンセティックスは重要であると感じた会議であった。国内においてもTC202国内委員会(委員長:石川達也先生・北海道大学)において、ジオシンセティックスの交通インフラへの利用に関する調査、研究等が行われている。

その活動状況は地盤工学会全国大会での DS 開催，地盤工学会誌での講座や書籍の出版が進められている。この会議を機会に，交通地盤工学が広く知れ渡ることを期待したい。



図-1 4th ICTG HP



図-2 Erol Tutumluer 教授によるウェルカムメッセージ